

白川村道路橋長寿命化修繕計画

令和7年11月改定

白川村 建設課

1. 長寿命化修繕計画策定の目的

1) 背景

白川村が管理をする道路橋は現在42橋（橋長2m以上）あり、このうち15m以上の橋梁は20橋、15m未満の橋梁は22橋存在している。また、架設後50年を超えている橋梁は全体の52%を占めており、10年後には全体の3分の2まで増加することから、今後施設の高齢化が急激に進行していく状況となっている。これについて、その都度修繕や架け替えなどを実施していった場合、これらの実施時期が集中する恐れがあり、一時的に膨大な費用が必要になるほか、大規模工事による交通規制や通行止めなど交通網に与える影響が大きくなる可能性がある。

このような背景から、今後増大が見込まれる橋梁の修繕・架け替えに必要な費用に対するライフサイクルコストの縮減及び維持管理費の平準化への取り組みが不可欠である。

2) 目的

村における道路交通の安全性・信頼性を確保し、あわせて中長期的な維持管理コストの抑制と施設の機能保持及び回復を図るため、これまでの対処療法的な対応から計画的かつ予防的な対応への転換を考慮した長寿命化修繕計画を策定する。

この修繕計画に基づき施設の維持管理を行うことで、村民が安心をして生活ができる道路交通を確保するとともに、ライフサイクルコストの最適化を目指す。

2. 長寿命化修繕計画の対象橋梁

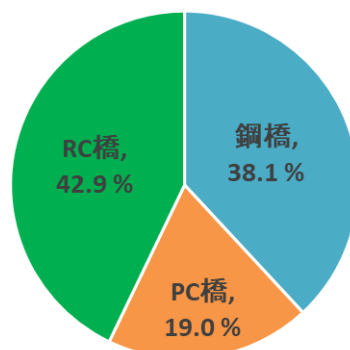
白川村が管理をする42橋を長寿命化修繕計画の対象橋梁とする。管理橋梁の状況などは次のとおり。

1) 管理施設数

	橋長15m以上	橋長15m未満	計
管理橋梁数	20	22	42

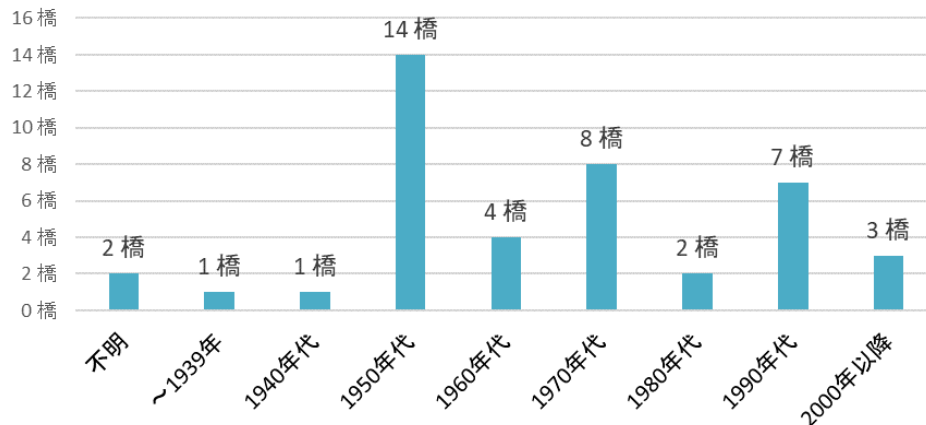
2) 橋種内訳

	橋長15m以上	橋長15m未満	計
鋼橋	15	1	16
PC橋	4	4	8
RC橋	1	17	18
計	20	22	42



【参考図】 橋種内訳

3) 架設年次別橋梁数



3. 健全度の把握及び日常的な維持管理に関する基本的な方針

1) 健全度把握の基本的な方針

健全度の把握については橋梁の架設年次や立地条件などを十分考慮して実施するとともに、道路橋定期点検要領及び岐阜県橋梁点検マニュアルに準じた定期点検を5年ごとに実施し、橋梁の劣化損傷状況（健全度）を把握して長寿命化修繕計画に反映する。

2) 日常的な維持管理に関する基本的な方針

橋梁を良好な状態に保つため、日常的な維持管理としてパトロールを実施し、劣化損傷の把握に努める。

3) 新技術の活用に関する基本的な方針

橋梁点検において、すべての施設で新技術の活用を検討する。特に通行者が多く点検時に注意が必要な施設について、岐阜県点検支援技術活用の手引きや国土交通省の点検支援技術性能カタログなどを活用した検討を行うほか、修繕工事においても新技術情報提供システムの登録技術などの活用を検討してコスト縮減を図る。

4. 対象橋梁の長寿命化及び修繕・架け替えに係る費用の縮減に関する基本的な方針

5年に1度の定期点検を実施して健全度の把握をするとともに、日常的な維持管理を行うことで予防的な修繕等の実施を徹底する。これにより、修繕・架け替えに係る費用の大規模化及び高コスト化を回避する。さらに、予防的な修繕の実施に際しては、新技術・新工法の導入を検討し、従来工法に比して経済的な効果が確認される場合は、積極的な導入を心掛けることとするほか、状況に応じて修繕計画を見直すことで維持管理に係る費用の縮減に努める。

また、橋梁の集約化・撤去については、地域特性や施設の利用状況のほか周辺道路の状況なども考慮しながら今後検討をする。

5. 対象橋梁ごとの概ねの次回点検時期及び修繕内容・時期または架け替え時期

年次計画、補修内容及び点検時期は、別紙一覧表のとおり。

なお、弓ヶ洞橋、馬狩谷橋、加須良橋は国道の払い下げ路線に存在する橋梁であり、この路線は通行者が無いことから修繕の計画を立てない。今後、現道（国道）との関係や現地の状況などを考慮しながら廃止を含めた検討を行う。

6. 長寿命化修繕計画による効果・目標

1) 計画的かつ予防的な維持管理への移行

白川村が管理をする道路橋の修繕・架け替えに必要な費用について、今後50年間を対処療法的な補修等であれば、約14.0億円必要であったものが、長寿命化修繕計画を策定し計画的かつ予防的な補修等による維持管理を進めることで、約9.2億円となり、約34%のコスト縮減が見込まれる。

なお、この見込み額については令和4年度までの状況や点検結果によるものであり、今後の価格変動や新たな技術の参入などを考慮しながら定期点検の結果に基づいた見直しを行い、計画を更新していく。

2) 新技術の活用による目標

前記3.3や4に掲げた基本的方針のとおり新技術の活用による維持管理費用の縮減を図るため、短期目標として令和11年度（定期点検3巡目最終年度）までの橋梁点検においてドローンなどの新技術を活用し、約30万円のコスト縮減を目指す。また、点検結果により修繕の検討が必要になった際にも新技術の活用を検討して費用の削減に努める。

3) 橋梁の集約化・撤去による目標

村が管理をする橋梁は迂回路が存在しないもの（一本道）や、離れているものが多い状況ではあるが、前記5に掲げた国道の払い下げ路線に存在する3橋について集約・撤去の候補として今後検討を進める。

撤去をした場合、単純に5年ごとの点検費用約100万円／橋の削減を見込むことができるが、橋梁撤去に係る概算費用約2,000万円と比較考量した際に、撤去をすることが最善の手段とは言い切れない可能性が示唆される。現地やその周辺との状況について再度確認をするほか、撤去における最新技術などの情報収集や活用の検討をするとともに、橋の下にある施設（河川やダム管理地）の関係者とも協議を行うなど、最適解を見いだしていく。

個別施設計画(15m以上橋梁)

	橋梁名	路線名	架設年次	橋種	橋長 (m)	幅員 (m)	法定点検計画															修繕計画（調査設計○、施工●）										判定 区分	対策内容	優先 順位	対策費用		
							H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15	H30	H31	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8					R9	R10
1	貫見橋	貫見橋線	1992	鋼橋	85.9	4.0			○					○				○																I			
2	長瀬橋	御母衣長瀬線	1975	鋼橋	70.2	4.5	○					○					○																	II			
3	稗田橋	木谷稗田線	1966	鋼橋	91.8	4.5	○					○					○																	II			
4	木谷橋	木谷稗田線	1973	鋼橋	72.0	4.5	○		○					○				○							●									II	耐震補強		40,000,000
5	弓ヶ洞橋	弓ヶ洞橋線	1935	R C橋	60.3	4.5			○					○				○																III	要検討		16,830,000
6	野々俣谷 1号橋	木谷野々俣谷線	1970	鋼橋	14.5	4.0			○					○				○																II			
7	であい橋	であい橋歩道橋線	1993	P C橋	107.0	2.0			○					○				○																I			
8	白萩橋	萩町鳩谷線	1955	鋼橋	70.8	4.4			○					○				○																II			
9	御番所橋	萩町戸ヶ野・島線	1958	P C橋	24.7	4.0	○		○					○				○																I			
10	戸島橋	戸島鳩谷線	1983	鋼橋	85.0	5.0	○					○					○					●		●	●	●	●							II	耐震補強		120,000,000
11	馬狩谷橋	椿原ダム 1号線	1952	鋼橋	90.8	4.5	○					○					○																	III	要検討		25,190,000
12	有家ヶ原橋	有家ヶ原橋線	1979	鋼橋	75.0	4.5	○					○					○																	II			
13	芦倉橋	椿原芦倉線	1977	鋼橋	90.0	4.5	○		○					○				○																II			
14	加須良橋	成出ダム線	1952	鋼橋	36.7	5.5			○					○				○																III	要検討		12,430,000
15	境川橋	蓮光寺・境川橋線	1950	鋼橋	27.9	4.5			○					○				○																II			
16	平瀬歩道橋	平瀬歩道橋線	1999	鋼橋	113.2	2.1	○					○					○																	II			
17	狐塚橋	ソウゾウ線	1999	鋼橋	40.0	4.0			○					○				○																I			
18	馬狩 1号橋	鳩谷馬狩線	1999	P C橋	18.0	7.0			○					○				○																I			
19	馬狩 2号橋	鳩谷馬狩線	2022	鋼橋	23.5	6.5			○					○				○								災								I			
20	長瀬3号橋	長瀬貫見線	2000	P C橋	15.0	4.0			○					○				○																I			

個別施設計画(15m以下橋梁)

	橋梁名	路線名	架設年次	橋種	橋長(m)	幅員(m)	点検計画															判定 区分	対策内容	優先 順位	対策費用
							H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7	R8	R9	R10	R11	R12	R13	R14	R15			
1	長瀬1号橋	木谷稗田線	1966	RC橋	3.8	7.5		○					○					○					I		
2	長瀬2号橋	長瀬白山神社裏山線	不明	PC橋	5.4	3.5	○					○					○					○	II		
3	次ヶ洞3号橋	萩町上野線	1970年代	RC橋	7.8	3.2	○					○					○					○	I		
4	次ヶ洞2号橋	萩町上町線	不明	PC橋	7.3	3.5	○					○					○					○	I		
5	次ヶ洞橋	萩町中央幹線	1970年代	RC橋	6.5	5.6		○					○					○					II		
6	芦谷橋	萩町中央幹線	1985	RC橋	6.5	7.0		○					○					○					II		
7	萩町1号橋	明善寺裏通り線	1950年代	RC橋	5.0	3.5	○					○					○					○	I		
8	萩町2号橋	萩町東側線	1950年代	RC橋	4.0	3.5		○					○					○					I		
9	萩町3号橋	萩町公民館線	1950年代	RC橋	2.5	1.8	○					○					○					○	I		
10	萩町4号橋	萩町下ゴン線	1950年代	RC橋	2.2	4.0		○										○					I		
11	鳩谷2号橋	鳩谷寺尾線	1950年代	RC橋	3.6	3.1		○					○					○					II		
12	鳩谷1号橋	鳩谷・飯島幹線	1970年代	RC橋	2.4	6.1		○					○					○					I		
13	小宮谷1号橋	役場裏通り線	1960年代	RC橋	5.8	3.6	○					○					○					○	II		
14	横道谷1号橋	役場裏通り線	1960年代	RC橋	6.5	3.5	○					○					○					○	I		
15	大溝谷2号橋	鳩谷・飯島幹線	1950年代	RC橋	6.7	8.0		○					○					○					II		
16	大溝谷1号橋	鳩谷・飯島南北線	1950年代	PC橋	7.3	4.0	○					○					○					○	I		
17	飯島橋	飯島神社前線	1955	RC橋	12.1	5.5	○					○					○					○	II		
18	牛首谷1号線	牛首谷線	1940年代	RC橋	5.0	4.0	○					○					○					○	I		
19	大溝谷3号橋	鳩谷駐在所東線	1999	RC橋	7.0	5.6	○					○					○					○	I		
20	放水路橋	平瀬幹線	1952	RC橋	8.7	5.5		○					○					○					II		
21	放水路歩道橋	平瀬幹線	1990年代	鋼橋	9.0	1.5		○					○					○					I		
22	ゲンダ洞橋	ゲンダ洞線	2008	PC橋	12.0	5.0	○					○					○					○	I		

※ 架設年次における「◇◇年代」表記のものは、正確な架設年は不明だが資料や聞き取りなどから導いた推測年として記載している